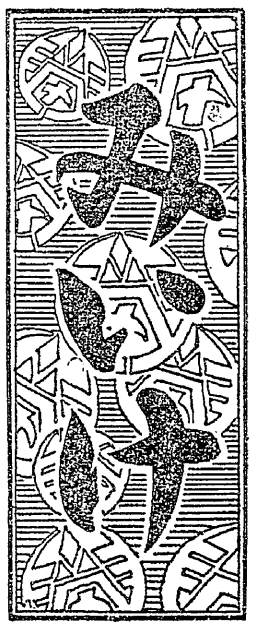


発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
編集兼発行人　壌　攻

つぶれるというのはデマ
働くものの生活と意見

会社は「……このままだとつぶれて、もともこもなくなる。だから〃再建案〃をみとめろ！」とそんな、バカバカしい宣伝をしています。

でも、バカバカしい宣伝だといつて、ほおつてはおけない問題です。それは、〃つぶれはしないだろうか？〃と本気になつて、心配している組合員や家族が、ぜんぜんないとはいえないからです。

会社のなかみはしっかりだ

心配しないでください。会社のなかみはしつかりしています。

会社は三十三年上期で十九億七千万円の赤字をだしたというが、左のグラフをみてください。

有価証券（これも金です）だけでも十九億二千万円も、もつているのです。

「備金が百九十億円もある」といつているけど、百九十五億六千万円もの有形固定資産をもつています。

私たちのような貧乏ぐらしをしている労働者には、ちよつと想像もつかないほどたいへんな金額によぶあちこちの会社の株をもつています。

円グラフをみるとわかるように東圧株だけでも四億七千万円もの株をもつています。

また、これから先の金儲けのために新しく竪坑をほつたり、人工島をつくり、新機械を買い、坑道をつくつたりしたほどの会社がどうしてつぶれるでしようか。

三井鉱山は大会社だ

三井鉱山は大独占企業です。右下の円グラフでもわかるように、全国出炭の一二・四八%もの石炭をほつています。また三池の出炭は三井の総出炭の三六・六%で四割ちかくもの生産をあげており、いつも黒字のヤマなのです。

決して会社がいうように「三池は三井のドラムスコ」ではないことを数字がハツキリと証明しています。

「半年（三十三年上期）で、十九億七千万円もの赤字をだしたのですさすがの三井鉱山もヨロメキだした」というのが新聞・雑誌・その他をふくめた会社側の宣伝です。

そして、「だから、残業や公休出勤を半分以下にけずるから辛抱してくれ」というのが再建案です。

そこで「赤字」を検討すれば、百十三日の首切り反対闘争のあと四十三億の赤字だといつていたが会社はつぶれはしなかつたし、三井鉱山ほどの大独占企業が「つぶれる」などとは、まつたくの「まゆつば」ものです。

ほんとうに「赤字」か？

1、帳簿上は赤字だが

だれもがしつているように、大がかりな経理をもつている三井鉱山だから、ちやんとした「帳簿」で赤字を公表しているのは当然であります。

ただし、これもみんながしつているように、「収入」を根こそぎ税金の対象にされているのは勤労者階級だけで、あとは「ごまかし」ばかりだといわれています。

つまり、大会社の経理は、少数の重役しかしらないし、少数の重役が決算を〃でつちあげる〃ということが「常識」になつているのです。

2、巧妙な「赤字」カラクリ

ごく常識的な反論はつぎのとおりです。

イ、退職手当引当金

その他

C表を見るとわかるように、コスト（原価）のなかの「労務費」には賃金や賞与のほかに、トン当り三百円から四百円にのぼる「退手引当金」があります。

これは、退職者に支払う退職金ですが、賃金とおなじように、すでに支払われたものとして積立てられ、その残額は現在四十三億円にもふくれています。

つまり、これは「社内留保」の利益金で、私たちの「貯金」と同じ性質のものです。

もちろん、退職金はいつでもちやんと払つてもらわねばならないが莫大な退手引当金を抜きにして公表された赤字を、うのみにはできないわけです。

しかも、半年で三百五十万トンも売るのですから、退手引当金総額は十億円にものぼるのに、実際の支払いは二億から三億円にすぎません。

ロ、トン当り損益

つぎに、トン当りの損益は、B表のとおりで、売上手取りと売上原価の差額がトン当り損益ですが、A表をみてください。この表は石炭の埋蔵量（まだほつていない石炭）がどれだけあるかをあらわしたものですが、だんぜん日本一です。

（A）　（単位＝千トン）

	総埋蔵量	確定埋蔵量	
三井鉱山	2,953,516	1,158,643	31,9末現在
三菱 〃	2,593,606	790,111	〃
北炭	2,488,884	705,534	30,4 〃
住友鉱山	約440,000		31,6 〃
古河 〃	340,101	189,071	31,9 〃
日鉄 〃	817,198	141,639	〃
明治 〃	199,447	133,615	〃
常盤 〃	446,539	183,688	31,7 〃
貝島 〃	145,261	85,218	31,9 〃
日炭	328,768	145,075	〃
太平洋鉱山	465,906	127,680	〃
雄別 〃	639,807	62,714	〃

以上のうち確定埋蔵量だけで、最低70年～最高200年まであり、これは31年9月を基準として調査したもので、この調査は年々調査により埋蔵量が増加するので掘採年数も増加する。

註　三井鉱山の埋蔵量は日本一である。

なんと三井鉱山は、毎期毎期の連続赤字だというのです。

しかも、昭和三十一年、三十二年の「神武景気」でもなんでも赤字だということが信じられますか？

そんなことはないはずです。

石炭会社が石炭を掘つて、毎年赤字だというのですから、こつけいなことで、「いいかげんにしろ」とどなりたくなります。

ハ、決算ぜんたいについて

C表の労務費中の退手引当金をみると、二十六年下期が四百八十六円で、二十九年上期が百四十八円ですが、好況（二十六年下期）で多額の積立をやり、不況（二十九年上期）では最少額に抑えていることがこれでよくわかります。

つまり、好況下では退手引当金をムリして引上げ、コストを高めて利益を少くする（かくす）というしかけだということです。

会社の経理、会社の赤字は、このようにわれわれの家計簿の正直な「赤字」とちがつて、巧妙にからくりをされることがはつきりします。だから信用できません。

どんな資本攻勢か!!

会社側はつぎのように攻撃をかけてきています。

1、他社なみに

「能率や出勤率を他社なみに」、「残業や公休出勤も切り下げて他社なみに」ついでに「職場闘争もやりすぎないよう他社なみに」というぐあいに、会社は「他社なみ」というマス・コミをかけています。

バカでないかぎり、会社が「他社なみ」という場合、必ずわれわれ以下の例をもつてくるにきまつています。

しかし、この特集号でよくわかるように、われわれの賃金その他は他社なみ以下だし、他産業に較べたらはるかに下まわつています。

むしろ、これだけの大企業を「赤字経営」に終始させている経営者こそ「他社なみ」以下のめんめんだといいたい。

2、うわべの低姿勢

有力な組合員に働きかけるため、職制が自宅接待などをやつているし、会社は「再建案に協力を乞う」という、低い姿勢をとつています。

また「再建案を強行する力も会社にはないので、組合が反対なら引きさがるしかないが、そのあとが思いやられる」などと賃金の遅欠配でマス・コミをかけています。

「勇退者」を募集するなどという新語も発明しているが、三井鉱山の重役が傍系会社の重役にすべりこむたぐいこそを「勇退」というのであつて、われわれの仲間にとつては「勇退」は「クビ」なのだ

このように会社はうわべだけの低姿勢でいます。

3、このままではつぶれるか

会社は「このままではつぶれる」とマス・コミをかけています。

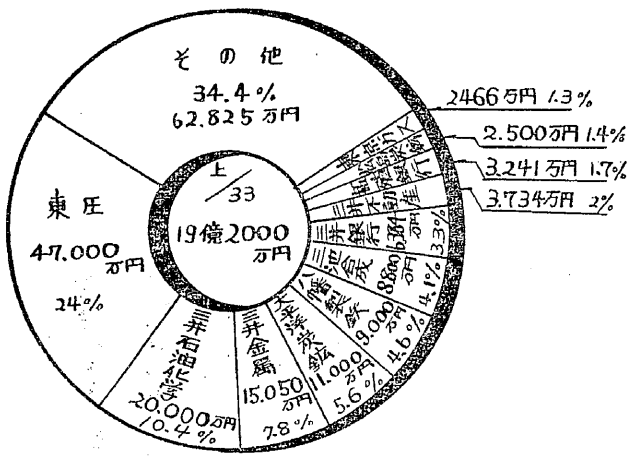
なるほど貯炭も多いし、炭界は不況だといわれています。

しかし、こんどと同じことを六年前の〃一一三日闘争〃でも、会社はもつと強硬にいい張つていたのを私たちは忘れてはいません。

当時四十三億円の赤字でもつぶれはしなかつたが、「つぶれる」ということばで、働く者の犠牲だけを強要して、ひとかけらの反省もしない経営者のやり方だけは、なんとしてもがまんがなりません。

われわれは、そういう「経営独善」こそがみんなの敵だと思らし、この際、無計画な資本主義生産の廃絶を主張しよう。

有価証券



※「その他の中の主なもの」（単位千円）

日本製鋼所	11,444
大阪ガス	17,713
第一物産	12,778
日本原子力事業	10,000
三井船舶	11,280
小野田セメント	50,875
九州電力	11,860
北海道電力	14,248
東邦ガス	10,120
三井信託銀行	16,500
協和銀行	18,384
日本長期信用銀行	20,000
勧業銀行	23,360
※関係会社分	237,563

前進

真実をみつめよう

私たちは「企業整備」をハネ返えし「賃上げ」を闘いとるため、ストライキを決行しています。

賃上げの「ゼロ回答」「企業整備白紙撤回拒否」にも、はげしい怒りをもやしています。しかし私たちの周辺は新聞も、ラジオも、テレビ、映画や雑誌もみんな資本家の手でつくられたものばかりでいつぱいです。こんな資本家のマス・コミのうずの中にいる私たちは、いまこそ労仂者としての「眼」で現実を正しくみつめなければなりません。

「再建案」のなかみが「クビ切り、賃下げ、労仂強化」の露骨な「企業整備」であることを、もうすでにみんながはつきりとつかんでいるはずですが本格的な闘いに突入したいまもう一度みんなが話合いましよう。

話合いによつて闘いへの理解を深め、団結をかためよう

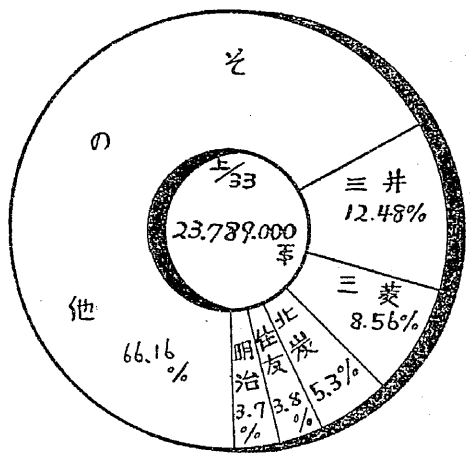
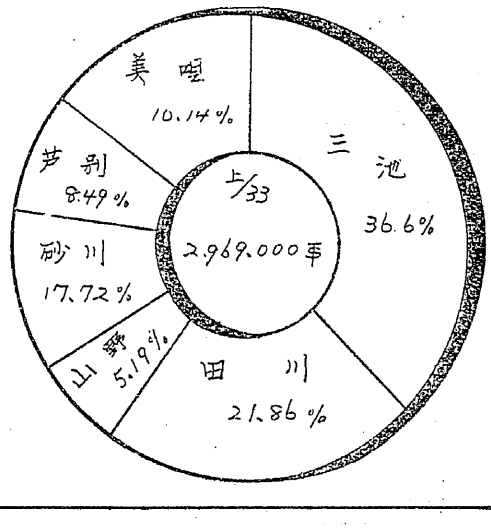
（B）　損益表

	上/29	下/29	上/30	下/30	上/31	下/31	上/32	下/32
	円	円	円	円	円	円	円	円
売上手取(トン)	3,948	3,619	3,651	3,751	4,070	4,516	4,995	4,997
売上原価(トン)	4,283	4,165	4,158	4,385	4,359	4,573	5,083	5,263
トン当り損益	− 335	− 546	− 507	− 634	− 289	− 57	− 88	− 266
	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円	万円
石炭損益計	− 88,400	−158,400	−141,000	−196,700	− 84,500	− 17,300	− 26,600	− 77,800
最終決算	2,400	2,600	− 37,200	− 67,500	51,100	21,100	37,300	18,300

（C）

	上/26	下/26	上/27	下/27	上/28	下/28	上/29	下/29	上/30	下/30	上/31	下/31
	円											
退手引当(トン)	336	486	235	226	283	167	148	172	181	214	234	226
労務費(トン)	1,818	2,103	2,265	2,310	2,273	2,200	2,026	2,096	2,304	2,332	2,400	2,516

全国出炭



三井出炭